

錦上添花

錦ヶ丘中学校
学校便り
1月24日発行 NO.31
文責 出崎 友英

受け取られなかったプレゼント

あるところに、とても人望があって周りの人たちから尊敬されている人物がいました。仮にAさんとしましょう。

そのAさんの姿を見て、ひがんでいる人物がいました。こちらは仮にBさんとしましょう。

「どうして、Aの奴はみんなから尊敬されるのだ。ゆるせない。」Bさんはそう言いながら、Aさんをおとし入れる作戦を考えました。

BさんはAさんが日課にしている散歩の途中に待ち伏せして、多くの人が見ている前でAさんの悪口をたくさん言うことにしました。「みんなの前で悪口を言われたら、きっと顔を真っ赤にして言い返してくるだろう。その様子を見たら、あいつの人気なんてアッという間に崩れるにちがいない。」と考えました。

そして、その日が来ました。BさんはAさんの前に立ちはだかって、ひどい言葉を投げかけます。

Aさんはただ黙って、Bさんの言葉を聞いていました。周りの人の中には「あんなひどいことを言わせておいていいの?」と心配する声も聞かれました。

それでもAさんは、ひと言も言い返すことなく、黙って、Bさんからの悪口を聞いていました。Bさんは一方的にAさんの悪口を言い続けていました。そして、しばらくしたら、Bさんはつかれてその場にへたりこんでしまいました。↗

どんな悪口を言っても、Aさんがひと言も言い返さないのです。Bさんはなんだかむなしくなってしまったのです。その様子を見ていたAさんは、Bさんに対して「もし誰かにプレゼントをしようとして、その相手が受け取らなかった時、そのプレゼントは一体誰のものになりますか?」と尋ねました。

聞かれたBさんは突っぱねるように言いました。「そりゃ言うまでもない。相手が受け取らなかったら、贈ろうとした人のものだろう。わかりきったことを聞くなよ。」

Bさんはそう答えてからすぐに、「あっ!」と気付きました。

Aさんは静かにこう続けました。

「そうですよ。今、あなたは私に

たくさん悪口を言った。でも、私

はその悪口をひとつも受け取ら

なかったのです。だから、あなたが言ったことは、すべてあなたが受け取ることになるんですよ。」

参考)「変わりたいあなたへの33のものがたり」植西 聰【著】集英社



鏡に映る顔を見ながら思った
もう悪口をいうのは やめよう
私の口から出たことばを
いちばん近くで聞くのは 私の耳なのだから
星野富弘「鈴の鳴る道」より

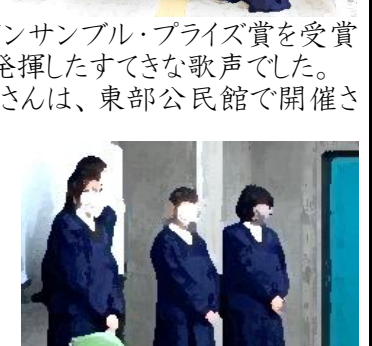
入試事前指導がありました。

1月20日(月)、3年生の「入試事前指導」がありました。いよいよ3年生が入試に挑む時期となりました。体育館に集まった3年生に向けて、私が中学3年生の受験前の時期に担任の先生から言われた言葉をもとに話しました。そして、進路指導担当の〇〇先生が、入試において心がけるべきこと、注意点などについて確認をしました。その後、担当の先生と受験校ごとに細かな確認を行いました。しっかりと心構えをして、受験に臨むことができたでしょうか。これからも、受験は続きます。受験は団体戦です。がんばれ! 3年生。



◆お知らせです。

〇1月19日(日)に、熊本県ヴォーカルアンサンブルフェスティバルがウイング松橋で開催されました。本校の合唱部が、フェスティバルの部とコンテストの部にそれぞれ出場し、アンサンブル・プライズ賞を受賞しました。練習の成果を発揮したすてきな歌声でした。また同日、放送部の皆さんは、東部公民館で開催された新春ファミリーコンサートの司会や運営のお手伝いに頑張りました。会場にはたくさんの乳幼児とその保護者の方々が集われて、平成音楽大の皆さんの歌やチェロとピアノによる演奏など、温かくにぎやかな雰囲気でのコンサートでした。放送部の皆さん、おつかれさまでした。



「やります!」と言った時点で、自分の可能性がひとつ広がる。
「先生のコトバ集」より